

スイレンの視覚イメージに対する配色効果の日タイ比較

140441118 平林 佳那子
川澄研究室

1. はじめに

各国の消費者の嗜好に合致したスイレンの色彩開発を目指し、先行研究では SD 法による印象評価実験によりスイレンに求める視覚イメージ(形容詞)を日本とタイで絞り込んだ[1]。また、日本人に対しその視覚イメージを向上させる色彩条件を PCCS 表色系に基づく新配色カードを用いて調査した [2]。しかしこの実験では花卉を単色で表現したため、結果的にスイレンとは無関係に決まるイメージと色彩との関係を確認することとどまった。実際のスイレンは2色以上の色彩を持つものが40%近く存在するため、本報では、花卉を2色のグラデーションで表現し、配色効果を調査する。

2. 実験方法

スイレンの色彩を CG で作成し、被験者に形容詞への適合度を評価してもらった。花卉の色彩はメインカラー(黄、橙、赤、ピンク、赤紫、青紫)とサブカラー(白)の2色の組み合わせからなるグラデーション A~E と単色の F を用意した(図 1)。形容詞は[1]の結果に基づき cheerful, gorgeous, pretty, warm, beautiful の5つを取り上げた。実験は6種類のグラデーションパターンを1セットとし、各形容詞への適合度を評定尺度法(0~30)により回答する方法で行い、メインカラー6色、形容詞5つに対して繰り返した。被験者は日本人44名、タイ人51名で、所要時間は1人につき40分程度であった。

3. 実験結果

図2は横軸に花の画像に含まれる白色の割合、縦軸に各形容詞の評価値、折れ線はメインカラー別の結果、黒色はその平均値を示している。

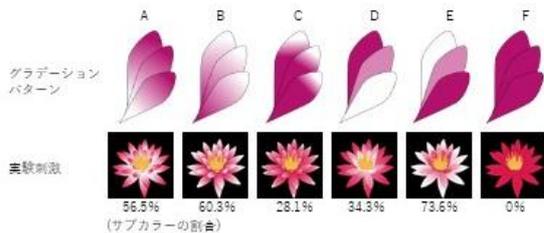


図1：グラデーションパターンと実験刺激の一例

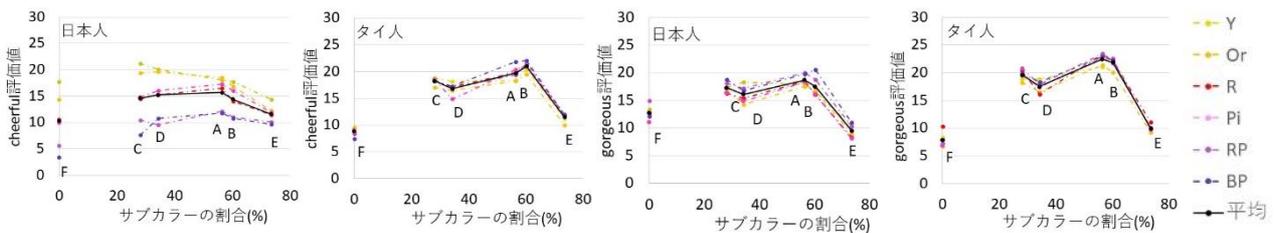


図2：cheerful と gorgeous の日タイ比較

日タイ共にほとんどの形容詞で単色(F)よりもグラデーションを持つ花卉の方が形容詞への適合度が高くなった。しかし白色の割合が最も高いEは他のグラデーション A~D と比べて評価が低く、日本の gorgeous では単色よりも低くなった。日本は, cheerful, warm, pretty で暖色は評価が高く、寒色は低いなど色相によって評価が大きく異なったが、タイはすべての形容詞で色相による評価値の差が小さかった。さらにタイでは白色の割合が 60%付近のものや、花卉1枚ごとに変化がある A, B, C のグラデーションパターンで評価が高くなった。これは、日本の gorgeous, beautiful でも同じであった。

4. まとめと今後

2色配色の花卉を用いて形容詞への効果を日本人とタイ人に対して調査した結果、ほとんどの形容詞で単色よりもグラデーションで効果が高くなった。その中で、日本人は形容詞によっては色相で評価値に差があったが、タイ人は色相による差よりもグラデーションパターンによる差の方が大きいことがわかった。今回の実験から、スイレンの視覚イメージを向上させるために花卉の色彩に2色を用いて変化を与えるのはおおむね効果的だが、変化のパターンによっては効果が薄くなることが示唆された。

今後はサブカラーが白以外の組み合わせのものや、花卉に模様があるものを用いた効果も検討したい。また、スイレン以外の花に対して調査することで、花による差異も明らかにしたい。

謝辞

研究討議、タイ語翻訳、被験者収集にご尽力いただいた Rajamangala University of Technology Thanyaburi(タイ)の Color Research Center および Lotus Museum に厚く御礼申し上げます。

参考文献

- [1] Nana Moriyama, et al.: Comparative Study on Visual Image Structure of Flower Products between Japanese and Thai People, Proceedings of 13th AIC Congress 2017, PO 01-53(2017)
- [2] 森山なな, 川澄未来子: スイレンにおける形容詞と色彩の関係性, 日本色彩学会誌, 41(3) Supplement, pp.83-85(2017)